

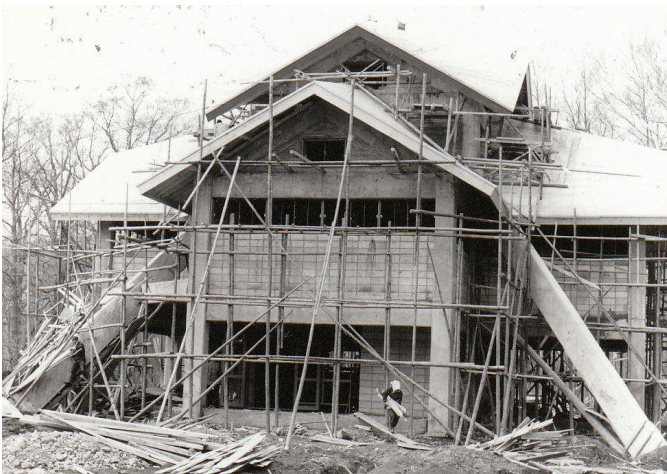
あのときの常呂・写真館

VOL 48

(1967年)

昭和42年6月10日

北海文化研究資料陳列館開館式



*上：建設工事中の陳列館



*下：完成した陳列館

▶「常呂町百年史」には、東京大学関連の研究・資料陳列・学生宿舎など一連の施設整備が次のように紹介されています。

「常呂町は、昭和40年12月に常呂町郷土資料館を建設し、東京大学はそこに常呂研究室を設置している。東京大学による本格的な調査研究のベースキャンプとなったわけである。そして発掘資料の増加にともなって、昭和42年6月に道補助を得て資料館（北海文化研究資料陳列館）を完成し、出土資料の一般公開を可能にした。昭和43年12月には東京大学によって常呂研究室附属学生宿舎が完成している。通称東京大学常呂研究室が文学部の研究施設として公的に設置されたのは昭和48年で、正式名称を東京大学文学部附属北海文化研究常呂実習施設という」

*下：陳列館の開館式



▶昭和42年5月号の「広報ところ」は、この北海文化研究資料陳列館完成のことを「資料陳列館が完成、美しさは観光にも一役」の見出しとともに「サロマ湖、栄浦の台地に常呂町郷土資料館と並んで見るもあざやかな北海文化研究資料陳列館が完成。静かな森の中

に建てられたこの陳列館は、鉄筋コンクリート造りの三階建てで延べ面積は343㎡。昭和32年から東京大学文学部によって進められてきた本町の遺跡発掘に伴う出土品を陳列したり東大の研究室として利用。美しい特殊な建物は、訪れる観光客も多くなることが予想され、常呂町の観光資源として一役買うことに」と概略を伝えています。



＊常呂町郷土資料館、実質は東京大学
常呂研究室（東京大学文学部附属北海
文化研究常呂実習施設）



＊学生宿舎と落成式